

熊本県立豊野少年自然の家 指定管理者 平成29年度 管理運営評価票

所管部課:教育庁教育総務局社会教育課

施設の管理概要

指定管理者名	ひとつくりくまもとネット・三勢共同体
指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日まで
施設概要	<p>所在:宇城市豊野町山崎1775</p> <p>施設:宿泊棟、プレイホール、キャンプ場等</p> <p>目的:本施設は、健全な青少年の育成と県民の生涯学習の振興を目的として設置された県立の青少年教育施設である。宿泊施設及び各種の体験活動のための施設・設備を活用して、利用団体による自主的な研修利用のほかに、自然や季節の特徴を活かした教育的プログラムとして企画事業を実施している。自然の中での体験活動が中心であるため、特に利用者の安全確保に留意して運営している。</p>
指定管理料	300,154,000円(4施設合計、利用料金制)

管理運営の評価

1 管理業務の水準の評価

管理業務の水準を表す指標	目標値	実績値	備考
研修者延べ数	30,686人	36,176人	前年度実績 30,458人
研修活動中の事故の有無	0件	0件	軽傷を除く
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>前年度熊本地震の影響で利用者が減少したが、今年度は熊本市内の小中学校の利用増による宿泊利用が増加、目標値を大幅に上回る(目標値比 118%)利用者を確保した。</p> <p>県では、特に施設における利用者の安全確保を重視し、指定管理者への指導を徹底しており、期間中の事故発生は0であった。研修や安全マニュアル整備・更新等を通じた、安全確保の取組みを期待する。</p>			

2 管理業務実施状況

施設維持管理業務実績

作業項目	業務内容	実施回数	備考
清掃	所内清掃	通年	
保安・警備	宿直業務	通年	
	ボイラー運転監視	通年	
保守点検	自家用電気工作物点検	月1回	専門業者に委託
	昇降機設備保守点検	月1回	同上
	消防設備保守点検	年2回	同上
	地下タンク保守点検	年1回	同上
	ボイラー保守点検	年2回	同上
	監視カメラ保守点検	月1回	同上
	空気環境測定	年5回	
	害虫駆除	年2回	専門業者に委託
	受水槽・高架水槽清掃	年1回	同上
	水質検査(残留塩素)	週1回	
	水質検査	年2回	専門業者に委託
	浄化槽保守点検	月4回	同上
	自家発電設備点検	年2回	同上
	アスレチック設備点検	年1回	同上
	塩素滅菌設備点検	月1回	同上
	浄化槽法定点検	年1回	同上
建築設備定期点検	年1回		
【点検・調査結果及び評価】			
施設設備の清掃、保安・警備および点検等については仕様書どおり専門業者が実施、頻度・内容ともに水準を満たしており、良好に管理されている。			

運営事業実績

(主な事業・イベント)

事業・イベント名	開催時期	参加者数	趣旨・内容
キャンプで子育て！Nature Family Land (全4回)	4～12月	138人	キャンプ活動を通じて家庭の親睦を深めるとともに、自然に触れ合うことで子どもたちの感受性、自主性を育む。
とよドン家げんキッズキャンプ	5/13,14	29人	様々な体験活動を通して仲間と協力する大切さを学ぶとともに、何事にも積極的にチャレンジする心を育てる。
森のようちえんもくもく(全10回)	5～3月	277人	田畑で土に触れる、季節の食材を食す等の自然体験活動及び地域の方々との交流を通して、乳幼児期の子どもの感性を育む。
ふれあいHOME(全6回)	7～2月	24人	不登校の小中学生を対象に、自然体験を通して仲間の大切さ学ぶとともに、コミュニケーション能力を養う。
宿泊施設実技講習会	7/25	58人	様々な野外活動を体験することで、体験活動の重要性や子どもたちへの指導法を学び、野外活動の推進を図る。
とよドン家パーク(夏、秋、冬各1回)	7～8,11,2月	271人	自然の家に気軽に足を運んでもらい、施設を身近に感じてもらうことにより、自然の中でのびのびと活動する場所、機会を提供する。
GO！GO！自然体験隊	11/4,5	13人	様々な体験活動を通して仲間と協力する大切さを学ぶとともに、何事にも積極的にチャレンジする心を育てる。
シンガポール訪問団と宇城市中学生の交流事業	11/25,26	27人	宇城市中学生とシンガポール交流団が、体験活動を通じて相互理解を深める機会を提供。
どんぐりリクエスト2017	10～11月	421人	施設利用者へ自然と触れ合う機会を提供し、自然への好奇心、探求心を育む。
北風チャレンジCUP	1/27,28	29人	様々な体験活動を通して仲間と協力する大切さを学ぶとともに、何事にも積極的にチャレンジする心を育てる。
防災通学合宿(全2回)	2月	61人	避難所として想定した自然の家からの通学を通じて、防災意識を高めるとともに、災害時に家族や地域の中で積極的に活動できる人材を育成する。
とよのワンダフルDAY	3/4	1,137人	地元住民、団体へ施設を開放、自然の家への理解と利用促進を図り、地域との連携を深める。
【点検・調査結果及び評価】			
<p>企画事業については、利用者のニーズを考慮し、内容を吟味しながら事業を行うことで、質の高い体験活動を提供し、参加者増につなげることができている。</p> <p>熊本地震の経験に基づき、防災通学合宿を実施しているが、防災教育の機会提供として評価できる。今後も学校との連携をはかり、継続していくことを期待したい。</p>			

3 利用状況

施設名	年計	年計	前年度計	前年度比
本館	開館日数	352 日	359 日	98.0%
	宿泊可能日数	348 日	358 日	97.2%
	利用日数	287 日	266 日	107.9%
	利用率	81.5%	74.1%	110.0%
	利用者実数	13,595 人	10,433 人	130.3%
	利用者延べ数	26,713 人	19,329 人	138.2%
キャンプ場	開館日数	352 日	359 日	98.0%
	宿泊可能日数	348 日	358 日	97.2%
	利用日数	18 日	17 日	105.9%
	利用率	5.1%	4.7%	108.0%
	利用者実数	220 人	165 人	133.3%
	利用者延べ数	440 人	361 人	121.9%
出前講座等	利用者実数	9,023 人	10,768 人	83.8%
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>熊本市内の小中学校への広報活動等の成果もあり、宿泊利用者は大幅に増加、本館利用延べ数は前年度比 38%の大幅増となった。今後も様々な利用者層の開拓、広報活動に努め、閑散期の利用者確保も含めた利用者増に努めていただきたい。</p> <p>出前講座の利用者が減少している。今後、熊本市内の小学校の集団宿泊が減少することが見込まれ、宿泊利用の確保が困難となることから、出前講座の企画および広報活動を強化し、出前講座の利用者取り込みを図っていただきたい。</p>				

4 管理経費の収支状況

収入			
項目		内訳	金額(円)
利用料金収入	本館	一般2,770人、高校生以下9,454人、就学前の者340人	4,341,640
	キャンプ場	一般48人、高校生以下82人、就学前の者12人	23,080
	宿泊を伴わない利用	一般1,278人、高校生以下543人、就学前の者850人	154,950
指定管理料		指定管理者による本施設への振り分け	58,840,000
企画事業等収入		18事業	881,722
その他活動収入		出前講座114団体	497,500
プログラム活動料金			436,050
食事代			19,669,570
シーツ等クリーニング代			1,086,600
雑収入			145,746
合計			86,076,858
		収入未済額	0
		うち利用料金収入分	

支出			
項目		内訳	金額(円)
人件費			45,700,215
運営管理費		旅費、管理費、活動プログラム費等	11,788,862
維持管理費		光熱水費、業務委託費、施設修繕費	26,523,468
企画事業費			574,359
合計			84,586,904
【点検・調査結果及び評価】			
利用料金収入については適正に収納され、指定管理料と併せて修繕を含む施設管理運営に必要な経費に適切に使用されている。			

5 利用者調査結果

調査実施 内容	調査年月日	平成29年4月1日～平成30年3月31日											
	調査方法	全ての利用者団体にアンケート調査を実施											
	調査対象数	182 団体											
調査結果	調査分野	回答内容											
		非常によい		よい		普通		あまりよくない		悪い		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	集団生活を学ぶ場	127	69.8	46	25.3	8	4.4	0	0	0	0	1	0.5
	活動内容	86	47.3	38	20.9	12	6.6	1	0.5	0	0	45	24.7
	職員の受入れ対応	145	79.7	27	14.8	8	4.4	2	1.1	0	0	0	0
	職員の指導・助言	136	74.7	37	20.3	3	1.6	2	1.1	0	0	4	2.2
	食堂スタッフの対応	99	54.4	35	19.2	15	8.2	2	1.1	0	0	31	17.0
	食事の質	74	40.7	56	30.8	21	11.5	2	1.1	0	0	29	15.9
	食事の量	68	37.4	50	27.5	28	15.4	5	2.7	0	0	31	17.0
	屋内の施設・環境	97	53.3	62	34.1	15	8.2	3	1.6	1	0.5	4	2.2
	屋外の施設・環境	86	47.3	48	26.4	22	12.1	2	1.1	0	0	24	13.2
	また利用したいか	ぜひ				機会があれば				利用しない		無回答	
		116	63.7			65	35.7			0	0	1	0.5
利用者からの意見等													
【点検・調査結果及び評価】		<p>全般的に利用者からの高い評価を得ており、評価できるが、前年との比較では、「非常によい」の評価が多くの項目で低下している。要因を分析の上、さらなるサービスレベルの向上に向け、意識徹底を図っていただきたい。</p> <p>他施設同様、アンケートからは食堂に関する評価の改善は確認できない。「食事の質」「食事の量」については評価が低下している。食堂サービスのクオリティーの向上とともに、更なる取組みの強化をお願いしたい。食事改善のパイロット事業に位置付けられている天草青年の家での成果を改善活動に活用いただきたい。</p>											

6 意見・苦情等の対応

利用者からの意見・苦情等	改善状況
栄養バランスに問題はないのか	厨房責任者・栄養士と相談の上、メニューの見直し、改善に努めている。
アレルギー対応食の提供の際の確認徹底	臨時研修を実施。 調理作業の環境・流れやメニュー設定を見直し、食器類も通常食と異なる色のお盆、食器により提供することとし、検食の意義の再確認を行った。
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>意見・苦情等に対して速やかに改善に着手している。アレルギー対応を目に見える、より分かり易い方法で改善を図ったことは、ミスの減少に寄与する取組みとして期待できる。</p>	

7 昨年度の評価で、改善を指摘された事項に対する対応

指摘事項	改善内容・結果
利用者調査結果の「非常によい」と回答した割合の減少、「食堂スタッフの対応」の評価への対応	利用者満足度獲得のため「サービスの質向上」をテーマにスキルアップ研修を実施、「全職員で気持ちの良い対応」を心がけ、「また利用したい」施設づくりに取り組んだ。 食堂スタッフについては、施設職員の一員であるという意識づけ、挨拶の励行に努めた。
食事の質と量	食事の質と量は、施設の長年の課題として位置付け、改善に取り組んでいるが、利用者評価の向上には今のところつながっていない。 控えていた生野菜の提供を開始し、利用者ニーズに対応している。 北九州の青少年施設の食堂視察、意見交換を行い、得た知見(アレルギー対応・注意喚起等)の反映を図っている。
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>指摘事項に対する対応・取組みは評価できる。</p> <p>食事の質・量の改善は各施設に共通の課題である。予算の制約はあるが、小さな改善活動を継続し、利用者の評価向上に努めていただきたい。</p>	

8 その他

アンケートの自由記述欄にも現場・共同体事務局スタッフ全員が目を通し、利用者のニーズを汲み取り、サービスレベルの向上を図っていただきたい。
--